

令和7年度 長与町学校評価(共通の評価項目)報告書

長与町立長与小学校

1 共通項目

基本目標 心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現

目標	取組の内容	評価	分析及び改善策
心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現	<p>1 豊かな心の育成</p> <p>①いじめ、不登校への適切な対応</p> <p>②挨拶と言葉遣い</p>	3	<p>○ いじめ事案が発覚した場合は、早急に情報を収集し、いじめ対策委員会を開催した。迅速かつ適切に対応することができ、全ての事案が解消もしくは解消に向かっている。また、早期発見・早期対応するために、対人関係のトラブル等については、初期段階での報告や相談、チームでの対応の大切さについて適宜指導し、実践できている。</p> <p>不登校や登校渋りの事案については、保護者と細かに連絡を取り合いながら、一人一人に応じた対応を進めている。学校だけでの対応が難しい場合は、スクールカウンセラー、こども政策課、相談支援事業所等と連携しながら、情報共有やケース会議を継続し、改善に繋がっている事例が増えてきている。</p> <p>○ 挨拶の向上については今年度も重点努力項目に位置付け、年間を通して日々の生活の中で指導してきた。児童評価は3.4→3.3、保護者評価は3.0→3.0という結果となり、前期と後期で大きな変化がなかった。職員評価も2点台にとどまっており、十分な成果が得られたとはいえず、今後も継続的な指導が必要である。</p> <p>言葉遣いに関しても、4点満点中児童2.9、教職員3.0と低い数値となっており、重点的な指導が必要である。今後も支持的風土の醸成をもとにした学級経営を浸透させていきたい。挨拶、言葉遣いともに、全職員が率先垂範の姿勢を示しながら、当事者意識をもって継続的に指導し、態度の変容を目指していく。</p>
	<p>2 基礎学力の充実</p> <p>①確かな学力の育成</p> <p>②教職員研修の充実</p>	3	<p>○ 長崎県学力調査、全国学力・学習状況調査ともに国語科、算数科それぞれの調査で、県平均・全国平均を上回った。しかし、国語科の「書くこと」領域、算数科の「図形」領域においては昨年同様に課題が見られた。学年ごとに、改善のための具体的な手立てを考え、2学期以降、重点的に指導を行っている。ながよ検定の結果については、4月実施の合格状況が漢字96.0%、計算94.7%に対して、9月実施の合格状況がそれぞれ97.4%、97.7%という結果となり、各学年において指導の成果が表れたと捉えている。</p> <p>○ 校内においては、学年部を中心に、授業づくりについての協議や授業公開を通して、授業力を磨き合っている。初任者研修や若手研修を授業者だけではなく、職員の成長の機会ととらえ、積極的な授業公開を実践している。さらに、校外での研修について積極的に推進し、自己研鑽の機会を与えている。</p>
	<p>3 健康安全教育の推進</p> <p>①食育の推進</p> <p>②安全教育の推進</p>	3	<p>○ 栄養教諭が中心となり、食べ物の栄養や給食時のマナー、地産地消、食糧自給率等についての指導を行っている。また、「食育だより」を毎月発行し、保護者への啓発を図り、食への関心を高めてきた。結果、児童評価3.5、保護者評価3.6となり、食に関して高い意識をもたせることにつながったと考える。</p> <p>○ 「はさみ歩き」という合言葉で、正しく安全な廊下歩行を努力事項として位置付け、継続的に指導を行ってきた。児童評価2.9、教職員評価2.67といずれも全体の中で一番低い数値となった。前期評価でも課題としてとらえ、特に昼休みの際の廊下歩行に重点をおいて全職員で指導事項を共有し指導に当たったが、改善には至っていない。方策の再検討が必要である。</p>

		<p>また、登下校の際、通学路の歩行の様子について、地域の方から情報をいただくことがあったので、指導を徹底したい。</p>
<p>4 特別支援教育の充実 ①一人一人のニーズに応じた支援</p> <p>②教育相談の充実</p>	4	<p>○ 特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援学級や通級指導教室の児童について指導や支援の体制が確立され、指導の充実が図られた。また、通常学級の中で個別の支援を要する児童に対しても、児童理解研修会や関係機関とのケース会議を通して、支援策を共有し組織的に対応してきた。一人一人の児童や保護者のニーズに応えるよう努めていると感じる。</p> <p>○ 困り感を抱える児童や、悩みや不安を感じる保護者に対して、積極的に個別面談を行い、家庭との情報共有を大切にしてきた。必要に応じて、担任だけでなく管理職も入って対応し、スクールカウンセラーやこどもと親の相談員との連携に繋ぐことで不安解消や問題解決に向かう事例もあった。</p>
<p>5 国際化への対応 ①外国語活動の充実</p>	3	<p>○ 外国語専科の配置により、コミュニケーションや発音等においてより専門的な指導を行ってきた。また、それぞれの学級で、ALT(外国語指導助手)を効果的に活用した外国語科及び外国語活動の授業を展開している。</p>
<p>6 教育環境の整備 ①整った教育環境</p> <p>②保護者・地域との連携</p>	3	<p>○ 学習環境を整えることの大切さについて、学校全体で共通理解をして指導にあたっている。その中で、話を聴くことについて重点的に指導しているが、教職員2.67、児童3.4とできていることに対する意識の差が見られた。目指す姿を教職員と児童で共有し、できた、できていないを明確にしながら指導にあたるのが大切である。</p> <p>○ 授業参観・学級PTA、保護者面談を定期的に行い実施し保護者との情報共有に努めてきた。学校だよりや学級だより等で学校や児童の様子の発信に努めてきたが、今後、学校ホームページの活用も図っていく。</p>
<p>7 教職員の資質向上 ①指導力の向上</p> <p>②児童に寄り添う教師</p>	3	<p>○ 授業の工夫については、今年度も、児童及び保護者アンケートとともに、よい評価をいただき、昨年度からの継続した実践により、一定の成果が得られたといえる。今後の課題としては、自分で学びを調整していくことができる力を児童に身に付けさせるための更なる授業改善を図っていくことが挙げられる。</p> <p>○ 昨年度は前年度を下回る結果となっていたが、今年度は児童3.7、保護者3.5と高い評価を得ることができた。児童に対しては、小さな努力やよい行いについて認めたり褒めたりする声掛け、困り感や悩みに対して最後までしっかり話を聞く対応を全職員で行ったことが児童や保護者の信頼を得ることにつながったと考えられる。保護者に対しては、把握した情報について迅速に共有し、思いに寄り添い誠意ある対応を行ったことが、安心感へにつながったと考えられる。</p>

2 自己評価のまとめ（成果・課題等）

（1）成果

- ①いじめ事案については、日々の細やかな見取りによる積極的な児童理解、隔月（1学期は毎月）実施した生活アンケート・個人面談により、早期発見・早期対応に努めた。昨年度よりも件数が減少していることは一定の成果と捉えることができる。しかし、細微な事案であっても積極的に認知し、確実な事実確認と情報共有を迅速かつ丁寧に行った。初期段階での報告や相談、チームで対応することを重視し実践し、重大な事案に発展することを防ぐことができた。
- ②特別支援教育コーディネーターを中心に、一人一人のニーズに応じた支援や教育相談の充実が図られた。困り感のある児童や、その対応に悩みや不安を感じる保護者に対して、積極的に個別面談を行い、家庭との情報共有を大切にしてきた。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、長与町こども政策課、医療機関と連携し、適切な対応に努めることができた。
- ③全国学力・学習状況調査の全国平均、長崎県学力調査の県平均を上回った。

（2）課題等

- ①新たに登校を渋る児童が増えたこと。
- ②挨拶については、教職員が意識的に指導を行ったときは向上するが、そうでないときは個人差が大きくなることから、十分といえる状況ではない。あわせて、適切な言葉遣いをするこへの意識も継続的な指導が必要である。
- ③全国学力・学習状況調査において、全国や県の平均を上回ることができた。12月に実施した標準学力調査においては、すべての学年・今日かで全国の平均正答率を上回ったが、学年内では正答率に差が見られるところがあった。さらに、3つの学年で長与町の平均に届かない結果であった。

3 学校関係者評価

（成果として認めていただいたこと）

- 登校中の児童の挨拶の様子から、指導が行き届いていることがうかがえる。
- 現状の変化に対応し、日々の努力し、児童のために尽力していることに感謝している。
- 給食をとおして、食への関心を高める工夫がなされている。

（課題として御指摘いただいたこと）

- 挨拶、言葉遣いなど、良好な人間関係を保つための基礎なので、これからも根気強く働きかけを続けてほしい。PTAを巻き込んだ展開も必要となるのではないか。
- 安全教育の推進について、評価が低い要因を分析し、改善を図ってほしい。
- ホームページを活用し、児童の様子を知らせてほしい。

4 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

- 挨拶や適切な言葉遣いについては、年間を通じて継続して指導しており、来年度も学校経営方針の重点事項の1つとして続けることとしている。「居心地のよい学校・学級」を目指し、子供たちどうしが認め合い、支え合う学級風土づくりを行っていく。全職員が当事者意識もち率先垂範を心掛けた指導を実践していくと同時に、PTAを巻き込んだ展開も考えていく。
- 学力向上に向けて、個別最適な学び、協働的な学びに児童が向かい、確かな学力を身に付けさせ、学級間の学力差をなくしていくために、日々の授業改善を図っていく。
- 学校ホームページを活用した情報発信に努める。

5 その他

（特になければ記入不要）

【留意点】

評価は、自己評価をもとに学校関係者評価にも十分配慮し、総合的に判断し記入する。
評価は4段階とし、以下による。

- | | |
|-------------------|----------------|
| 4 十分達成できている | 3 概ね達成できている |
| 2 どちらかという達成できていない | 1 ほとんど達成できていない |